

OnAir 1500 ユーザーレポート

東北放送株式会社 様

OnAir 1500-6F



MA 室に OnAir 1500 を採用



東北放送株式会社
技術局技術管理部
長田英之

東北放送では、本社 A-site 3階の MA ルームの整備更新を行いました。2007年に HD 映像編集機が整備された際、元タラジオマスターであった空き部屋に、所有している機材を持ち寄り、本当に簡易な MA システムを構築しました。ただし床や壁は建築当時のままであったため、お客様を迎えられるような環境ではありませんでした。そういった経緯、現状もあり、今回はシステムだけでなく、内装も含め新たに整備しました。

システム整備で最も重視した点は、実際にフェーダーを通して音をきちんと整えることでした。フェーダーを通すことで、適正な音量、音質、音色を確認・調整することができます。ただ、持ち寄った機器のシステムでは、アナログ音声に関して、繋いだ箇所では必ずといっていいほど音声レベルの微調整が必要でした。そこで、音声調整卓から録音機器間は全てデジタル音声での入出力とするべきと考えました。一方、ヘッドアンプの性能がそのまま音質につながり、そしてマイクもナレーションに特化している物で

あれば、収録した音声は、各機器間のレベル、インピーダンスの調整の必要が無く収録ができると判断しました。また後に、編集加工する手間が減り、効率が上がると判断しました。加えて、アナブースの TB/BT の構築も、音声調整卓内で構築が可能な事も重視しました。以上を総合的に判断した結果、STUDER 製 OnAir 1500 を採用しました。

実際に MA を担当する方々の声として、音声調整卓の操作面は基本フェーダーのみのシンプルな操作性を求められました。そこで、OnAir 1500 は 6 フェーダータイプ、電源もシングルとするなど、非常にシンプルな構成を採用しました。周辺機器に関しては、モニタースピーカーは GENELEC 製 8030 を流用、マイクは BlueMicrophones 製 Dragonfly を採用しました。ナレーションの収録を重視する MA 担当者の皆さんからの第一声が「いいですねえ〜!」とお褒めの言葉を頂きました。重複しますが、今回の改修では内装にも手を入れました。これはお客様を迎える環境の改善はもちろん、編集マンやナレーターの仕事環境、及び音場の改善等を総合的に考えた上で手を入れました。

そして重要なもう 1 点。空調が館内空調でしたので、温度調整が難しく苦労していました。そこで MA ルーム単独空調化しました。ただしアナブースは部屋が狭いため、同じ空調設備にダンパーを設け、空調の量を調整可能にしました。これにより、編集室は勿論アナブース内でも以前とは違い、かなり快適な室温でかつ空調音も気にならない非常に良い空間を構築できました。

そんな劇的な変身を遂げた MA ルーム。今回のシステム更新にご協力して下さったスチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様、アイコニック様、音響設計では日本音響エンジニアリング様、建屋改修では共立建設様の皆様に色々和无理難題を全て形にして頂きました。この誌面をお借りし、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

